



表紙 町の花「れんぎょう」  
(紫雲寺町中央公民館)

特集 公民館全国セミナー参加報告

視 点 唄の心から

ひろば 誰かの、何かの、お陰様

実践記録 「世界で一つ自分だけの切出小刀を作りましょう」

サークル交流 墨友会 (土越市立公民館)

げんきっこくらぶ (湯沢町公民館)

素顔拝見 石黒昭彦さん (燕市中央公民館)

早川正夫さん (黒埼町教育委員会)

### 第3回理事会開催

## 平成10年度の事業計画(案)でできる

## 地方分権推進委勧告への対応のため

## 上部組織との連携・強化を

去る2月20日(金)、新潟市中央公民館において、第3回理事会が開催され、本会の「新年度基本方針・事業計画並びに収支予算案」「第49回県公民館大会」など、報告事項3件、審議事項5件が協議され、ほぼ原案とおりの承認された。

また、その特色としては、当会公民館月報のA4版への移行、個人購読者層の拡大等に努めることとなった。

また、評議員会の審議に委ねられることとなった。

報告事項では、平成9年度の会務報告、関東甲信越静プロジェクト理事会報告(詳細は、下欄関プロ報告参照)第9回公民館全国セミナー参加(詳細は3・4

月号特集欄掲載予定)等の報告がなされ、それぞれ了承された。

一、新年度の基本方針・重点事項・事業計画並びに歳入・歳出予算案について

基本方針は、規制緩和の下の、地方分権推進委勧告への対応のため、全国公民館連合会、関東甲信越静公民館連絡協議会との連携を図る必要上、①に上部組織との連携・強化をまず位置付け、②職員への資質向上、③情報提供の充実、④県公連の体質強化の四点を重点施策として事業に取り組みこととした。

このうち「情報提供事業の拡充」については、「県公民館月報」の刷新充実のため、A4版への移行を図ること、個人購読者層の拡大を積極的に行うこと、

読者層の拡大を積極的に行うこと、

また、個人購読者層の拡大等に努めることとなった。

また、個人購読者層の拡大等に努めることとなった。

## 関プロ公連理事会開催

## 第39回関プロ研究大会を中心に

一本県担当分科会は「地域づくりと公民館」に

去る2月6日(金)、山梨県甲府市丸の内、山梨県庁本館において関プロ理事会が開催され、会長、事務局長が出席した。

議題5件が協議され、ほぼ原案とおりの承認された。

(1)第38回関プロ研究大会の収支決算報告について、大会事務局である千葉県公連より報告。

(2)関プロ公連理事総会日程については、平成10年6月4日(木)5日(金)第39回大会開催地の山梨県河口湖町で開催することで決定。

(3)第39回関プロ公民館研究大会開催については、要項案とおりの承認された。

要項の詳細は、4月号に掲載予定。

三、その他情報交換

報告資料の「地方分権推進委の勧告に盛り込まれた事項に関する論点整理」に触れながら、公民館を取り巻く厳しい状況について、積極的に意見交換しながら、理事会を終了した。

開催については、要項案とおりの決定した。(当会月報2月号で第1次案として予告掲載済み)

(4)関連して同大会分科会の担当都県の割り振りについては、第6分科会「地域づくりと公民館」が当県に決定した。(只今、内々に佐渡地公連に打診中)

(5)公民館をめぐる状況の中での関プロ公連としての取組について。

◎全公連への要望事項

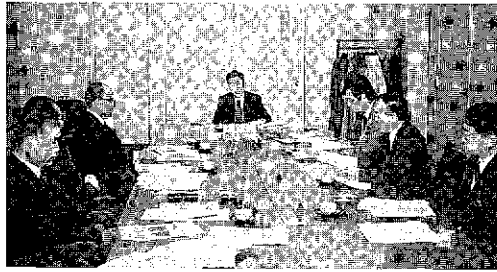
①事務局長の後任者の早期決定、事務局員の複数配置等、事務局体制の強化

②全公連事業の見直しの中で、効果的な事業運営及び効率的な予算執行

③公民館に関する急激な状況変化に迅速に対応するため、会長の早期決定等を含め組織体制及び運営の改善強化

◎要望に対する松下周常理事事からの回答

全公連理事会開催前のもあり、これら三点の要望については前向きに検討、改善中である旨の回答がなされた。



新潟市中央公民館での第3回理事会



# 第2回編集委員会終る

## 10年度上半期特集記事テーマと 月報A4版への移行研究

去る2月13日(金)、新潟県中央公民館において、第2回編集委員会が開催された。

主題は、平成10年度の上半期の特集テーマに関するもので、基本的には、平成9年度シリーズを原則踏襲することとした。また、各委員によって用意された主なものを紹介すると、「利用者の声特集」「先進県の事例紹介」「男女共同参画」「障害者と

公民館」「受益者負担特集」等が挙げられた。

なお編集部では、これらを整理し、可能な限り掲載すべく取り組んでいきたい。

今後の課題としては、月報A4版への移行について検討・協議・実現に向け努力していくこととした。この面での皆様方からの積極的な協力を切に望みたい。



# 視 点

先日の日 報に「ずい ずいづい ろはし」の 唄心につい て載ってい た。また ま、幼稚園 で子どもの心の育ちに ついて「しゃぼん玉」 の唄の心を例にして話し合った時だったので興味深く読んだ。



## 唄の心から

坂 詰 好 以

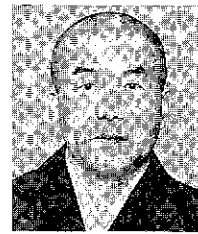
な しゃぼん玉飛ばそ さらさらを童心に帰らせなつかしさのこみ上げてくる唄である。でも、この唄にはしゃぼん玉の七色の輝きや、遊びの楽しさが

なく、こわれて消えた 儂い表現が多い。それは、作詞者の野口雨情がこの唄、その日の暮らしにも困る貧乏詩人で、生まれて間もない最愛の我が子を、かぜがもとで死なせてし

まった翌日に書かれた詩だからである。この世に生を受けながら歩くことも、遊ぶこともせずに「こわれて消えた」わが子への切ない思いや、「風、風吹くな」

# 誰かの、何かの、お陰様

糸魚川市公民館運営委員 川 原 敏 光



11月末 日に福井 県へ出か けなけれ ばならな かった。 朝から強風が吹き荒れていた。JR糸魚川駅に着いたら、姫川鉄橋の風力計が基準を越えているので、列車を停車させている。復旧の見込みがないので、客は4台のシャトルバスに乗り、富山県泊駅まで送ることに なった。バスは高速道路を走り、風の状況を計る吹き流しは垂れ下がり、風は既に消まっていた。

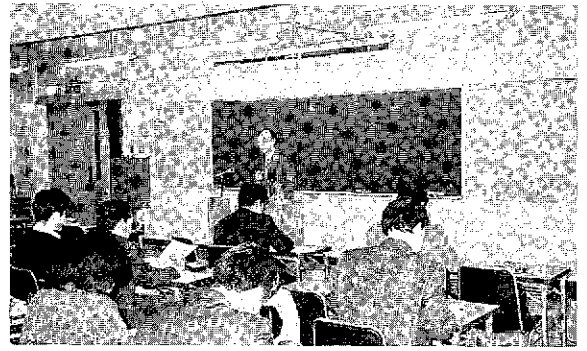
# ひ ろ ば

長時間かけて泊駅に着き、客の表情に安堵の色があった。しかし、電車にはすぐ乗れなかった。JRからは何も説明がない。客の中から「何か説明しろよ。一体、どうなっているんだ。」と叫ぶ人がいた。「30分程、お待ち下さい。只今、臨時列車が向かっていますから」とJRから説明があった。この説明に対して、怒り出す人がいた。先を急ぐ人にとって、直ぐ出発しないことが不満なのであった。この光景を見て思った。「この人達の思いの中には、まだ強風が吹き荒れている。糸魚川の強風を泊まで持つて来ている。風は既にここには吹いていないのに、心の中は暴風が吹き荒れている。いまだに風を引きずっている。」 この心は一体何だろう。 洋の東西を問わず、人間は自らの思いや欲望に振り回され、悩み、苦しみ、そしてこれを克服すべく、生きるための哲学を生み出してきました。私達は自分の現実の生活を満足できずに暮らしています。誰でも自分程かわいいものはないと考えています。いつも自分を中心に行動し生活しています。だから、人は誰でも自分を守りたいのです。そこで「私だけは……」という考えで生活したら、社会や家庭から争いが絶えませんが。誰でも自分がかわいいのですから……。 だからこそ、お互いにいたわり合う心を持つべきです。 今、ここに、こうして生きているのも、きっと、誰かの、何かのお陰様なんだから……。

(安田町立安田幼稚園 園長)

# 十一参加報告

## オリンピック記念総合センター会場で その研修報告記である



### 一、はじめに

二十一世紀の足音が聞こえ始めて来ましたが、改めて社会教育や公民館のあり方を、真剣に考えなければならぬ時ではないかと思えます。

公民館に勤務して十年になりますが、初心を忘れ、管理的になつてゐるのではないかと、自身自身が悩んでいた時に、「公民館全国セミナー」に参加する機会を与えていただいたことに、心から感謝しています。

自分なりに感じたことを綴らせていただきます。

### 二、現状の公民館

ご指導いただいた先生方等しく、今日の公民館活動に対し、多くの疑問と厳しい評価を持っており、公民館の将来を憂いてるように感じました。

要点をまとめると、次のように整理できると思えます。

○どこの公民館でも最近、自己実現充実のための学習活動については、非常に活発に行われているが、これらは公民館本来の活動とは言いがたい。

○「多様なニーズに応える」と言うことを、勘違いしてはいないだろうか。公費を使ってカルチャーセンター的の事業を

行う必要があるのだろうか。

○現代の課題を学習するニーズも多いはずであり、人が集まり難いとは思ふが、その方が極めて重要である。

○公民館の役割は、街づくり、地域づくりなど、生活上のための学習活動の支援であると考え。

○しかし、学習者全てに共通した話題(学習課題)は極めて見つけ難いが、学習ニーズをどう把握し、学級講座をどのように組み立て、一人でも多



## 二十一世紀と公民館

紫雲寺町中央公民館長 板垣克彦

くの人に求めてもらうかが課題である。

○特に、関心を持って足を運んでもらうためには、来る人の不安を解消してやるため、公民館や職員の第一印象も大切であることから、その環境整備に努める必要がある。

### 三、初心にかえて

住民ニーズも多様化、高度化しているが、それに応えるだけの専門性が今、問われていることも事実であります。華やかさや賑やかさを追求するだけの公

民館では、リストラの波に飲み込まれかねないと思えます。

○「最近、公民館は元気がない」と言う声を聞く。」

○北海道教委小山社会教育課長「公費を使つての趣味講座を、なぜ公民館がやらなければならないのか。」

○東京大学鈴木助教「公民館がなくても、人々は幸せに暮らせる。」

真の感動を求めるキーワードが、この辺にあるように思われます。

た」。戦後の混乱期を建て直し、公民館の生みの親である「寺中構想」を。

四、真の感動を求めて

とかく学習活動は、大勢集まったかどうかで評価されます。したがって、どこの公民館もそうした趣味講座を開設せざるを得ない現状であり、当公民館も例外ではありません。こうした趣味講座は、一見華やかさがあります。そこに真の感動があるのでしょうか。

セミナーの中で印象深く、脳

裏から離れないことが三つありました。

(一)文部省中根社会教育課長

「最近、公民館は元気がない」と言う声を聞く。」

(二)北海道教委小山社会教育課長「公費を使つての趣味講座を、なぜ公民館がやらなければならないのか。」

(三)東京大学鈴木助教「公民館がなくても、人々は幸せに暮らせる。」

真の感動を求めるキーワードが、この辺にあるように思われます。

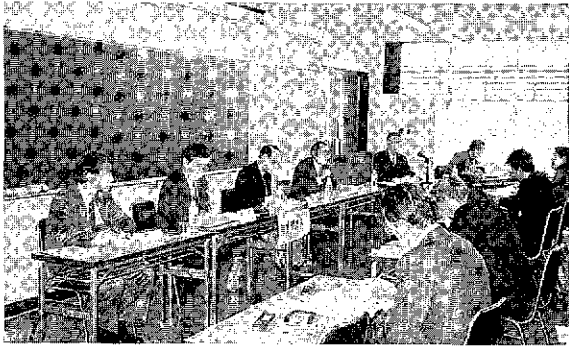
### 四、おわりに

今、国も地方の自治体も、厳しい行財政運営を余儀なくされています。このような時代にこそ、「なくては困る」公民館が必要であると考えます。

その意味でも今回のセミナーは、貴重な場であり、体験でもありました。

人生や学習は、自分探しの旅であると言われますが、一人でも多くの町民が、自分探しの旅に出てくれるために、人との出会いを大切に、魅力ある事業の展開が必要と感しています。

やがて来る新しい世紀に輝き続ける、紫雲を育成するため



# 公民館全国七三

去る1月28日から30日にわたり東京各都道府県から参加して行われたが、

## ◇はじめに

市職員として勤務以来二十五年、昨年初めて社会教育行政の最前線である公民館勤務となり、八ヶ月経過いたしました。同じ行政機関でありながら、ものの見方、考え方にかんがりの相違があり、今なお暗中模索の状態で研修に参加させていただきました。

今回の研修テーマである「地域の活性化と公民館」は、偶然にも当公民館が「公民館と地域のかかわり方」について公運審に諮問している経緯もあつたことから、大変興味深く受講することができました。

各講義等は、それぞれの分野における第一人者の先生方であり、すべてご紹介したいところでありますが、今回は特に、東京大学助教授鈴木先生の「地域の活性化と公民館の役割」について、ユニークな講義の中にも鋭い指摘もあつたことからその内容の一端を報告させていただきます。

## 一、社会教育施設（公民館）とは何か

公民館は法的に規制がかけられていないが、人々は、いつでもどんな場所でも学ぶことが可能である。定められた場所のみが

学習施設であるとの考え方を捨てる、公民館が公民館でなければならぬ理由をそれぞれ考えて欲しい。

## 二、地域の活性化をめぐる

活性化された地域とは、単に人々が多く集まり賑やかな所ではなく、人々が充実感をもって、幸せな日常生活を営んでいる地域のことであり、公民館は、人と人とを結びつける場所として、地域の活性化のためにどうすればよいのか考えて欲しい。

## 三、施設（公民館）の活性化



新潟市東地区公民館主幹 歌川 優

## 地域の活性化と公民館

学ぶことは、すぐに成果があらわれることでもなく、明日生かすためでもない。何が起こるか分からない現代社会の中で、人々の学習への内容は多種多様となってくるが、公民館は、地域の人々が選択できるような機能の充実を図ることが大切であり、そのためには、市町村の枠をこえた地域の拡大を考える必要がある。

## 四、公民館職員として

公民館職員は、ただ自分たちの内面的立場から公民館のあり

方、運営を考えるのではなく、外部の人が公民館をどうみているのか、公民館の役割をどう考えているのか再考してみることがある。公民館は一般の人からみて、ややもすればマイナスのイメージが強いことを一コマ漫画、新聞記事を参考に話されたことが、非常に印象深く、公民館職員として考えさせられたことでありました。

## ◇研究発表を聞いて

全国に一万七千余の公民館が設置されているが、それぞれ施

をもった施設が必要であり、生涯学習の拠点となるような施設の整備が重要になってくると感じました。

## ◇終りに

今後公民館が、地域の活性化を図っていくには、現在の地域社会において人間関係の薄帯感の希薄化が進む中で、ただ単なる趣味的講座による人集めや、人と人との出あい、交流の場を提供することも大切な役割りの一つと考えられますが、さらに、それぞれの地域において、将来自分たちの生活が向上するためにはどんな問題があり、どんな学習をすればよいか、地域の人たちから知恵を出してもらい、

設の形態、運営方法、職員体制等が非常に異なっていることに驚くと同時に、職員の方々が地域の特徴を活かしながら、創意工夫に努めていることに対して感心させられました。

そんな中で、今後さらに、地域の人々の種々な分野における学習支援を果たしていくには、ソフト面は別として、公民館単独施設では無理であると思えます。仙台市の市民センター（文化センター）、公民館、図書館、市政情報室。）のような複合機能

最後に、地域の人から、その地域に住んでよかったと言えるような地域づくりは公民館職員として、少しでも手助けできれば幸せであると思っております。



# 実践記録シリーズ(22)

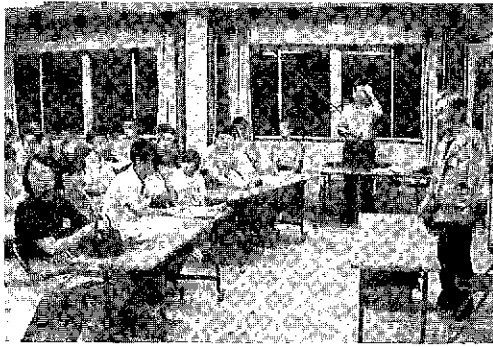
## 「世界で一つ自分だけの

## 切出小刀を作りましょう」

### 『さんじょう鍛冶道場』—五年間の軌跡—

三条市中央公民館

三条市の地場産業である「金物」の歴史は古く、その起源は江戸時代初期の和釘製作に遡ることが出来ます。今ではわが金物の町三条の伝統文化にもなっ



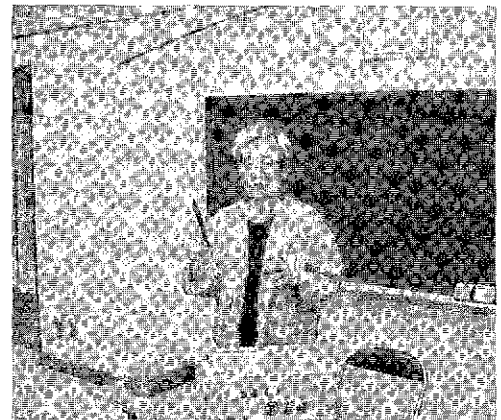
ている鍛冶屋さんの、ものを作り上げる喜びを市民の方々にも体験してもらおうと、平成五年度より、中央公民館の成人講座の一つとして、「さんじょう鍛冶道場」を開催いたしました。

初年度は、果たして受講希望があるか不安でしたが、ふたを開けてみると、定員の三十名はあつという間に満員になりました。その後も、毎年定員をオーバーする受講希望があり、一年間待っていたたく方も出る状態でした。「溪流釣りをやるのでナイフに興味がある」「三条に嫁いで二十年になるが毎日使う刃物に興味を湧いて」「左ききなので、左きき用を」等、動機はさまざまです。また三条市内はも

た女性の方も毎年受講されました。年代も中学生から六十歳過ぎの方まで幅広く、他の公民館講座では見られない参加者構成でした。

この講座を直接指導してくださったのは現役の鍛冶職人の皆さんで、刃物の研究では世界に知られた岩崎重義さんを道場師範とし、「鍛冶集団」と言われる皆さん方を師範代とし、三名一組の受講者に一人の方が担当していただき、完成まで一緒に作業を進めて行きます。

実技は四回です。燃え上がるコークスの前で、八百度にも熱させられ、まっ赤になった鋼に鋸を振り、文字どおり「鉄は赤いうちに打て」の作業が繰り返され、一枚の鉄片が少しずつ



小刀の形になっていきます。

最終講では、完成した作品に各自思いのこもった銘が刻まれ、その作品はプロのそれと見かけは大差ない出来映えです。しかし完成するまでには、時間内に行程が進まず、師範、師範代を訪問して個人教授を受けた方もいたようです。それだけに師範間の絆も強まり、一本の小刀に込められた思いを、時の経つのも忘れ語り合う姿が見られました。そして受講修了証が全員に渡され、作品と共に生涯の思い出になることと思います。

また今年度は、去る十月開催された「まなびピア新潟'97」の三条市ピースの一角に、受講生の作品と作業中の様子を、ビデオと写真パネルで紹介いたしました。

た。ご覧になった方もおられると思います。五年間にわたり開催して来ましたが「さんじょう鍛冶道場」は、中央公民館の講座としては今年度で終了いたします。この間百五十余名の方が受講され、三条の伝統文化に触れ、ものを作る喜びを感じ取っていただいたことは講座としての大きな成果であり、一つの役割を終えたことに喜びを感じています。

「さんじょう鍛冶道場」この大きな財産を全国に発信できたことを、ご指導いただいた「鍛冶集団」の方々と共に五年間を振り返っている昨今であります。「さんじょう鍛冶道場」は、スタッフを変えて新年度から再びスタートします。これからも、三条の伝統文化の「かじ」の技を全国に、世界に発信し続ける「三条鍛冶集団」の方々に感謝して、五年間の軌跡の報告をさせていただきます。



# サークル交流

自然を描く

墨友会

昭和六十年の五月に、上越市立公民館「墨絵教室」の受講者が集い、現在は「墨友会」という名で、月三回(火)夜7時から9時まで、社会教育館で自主活動をしています。絵は自分で好きなものを描き、先生の指導を得ています。書をかく人もそうだと思いますが、なんとも言えない墨の匂い、山を描き、森を写し一ぶくの絵を描きあげ、先生の手直し指導で、出来上がった絵をジット見つけて悦に入っ



ている時は、この上もない気持ちです。水墨画は線と点と濃淡のハーモニーといわれています。水と墨の濃淡で描く絵は、なんととも言われぬ美しさがあります。

毎年公民館主催で、十月に「文化展」が催されます。いろいろな教室の発表展です。

会員全員が出品し、市民の皆さんから観て戴くときが、なんとなく充実したものを感ぜます。

会員現在十七名、今年も皆さんで頑張ります。

(墨友会代表 田中正夫 記)

いきいき子育て

育児サークル

げんきっこくらぶ

二年前、湯沢町に住む就園前の子供達とそのお母さん達を対象に、このサークルは始まりました。試行錯誤を続けながらも、会員みんなが力を合せて今までいろいろな活動をしてきました。

毎月会報を発行し、活動日は月二回で、春には新しい会員を募集して発足会、夏は水遊び、秋は芋掘り、冬はクリスマスと、季節に合った行事などを22組の



会員達が自分で企画し、運営する自主運営の育児サークルです。

会員に参加して良かった点等を聞いたところ、子供達については「いろいろな体験をさせてあげることができた」「人見知りをしなくなった等、大勢の友達と遊ぶ中で子供なりにいろいろなことを学んだように思えました。

お母さんについては「気分転換になった」「友達ができただけで、共通の話題や悩みを持つお母さん同士、話をすることでかなりストレス解消になったようです。これからも、いきいきと活動する姿を子供達に見せていけたらと思っています。

(げんきっこくらぶ

陸川直美 記)

燕市中央公民館

主事 石黒昭彦 さん

平成八年四月、二十五歳の彼はやってきた。前職場は税務課で若手のホープだ。年々職員の採用も減る中で若い職員の加入は、正に熱烈歓迎といったところであった。比較的小柄ではあるがスポーツマンの彼は学生時代からバレー部に属し、実体が軽くニツクネームは「チョロ」とい



現在社会教育係

われている。

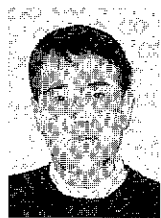
で青少年ホームと青少年教育及び地区公民館の担当と、極めて多忙な毎日であるが、これを全力で取り組む仕事に対する姿勢は他の模範的存在である。また、近頃これほど電話や来館者への対応がしつかりできる若者はまれだと感心している。だからこんな彼がもてないわけがない。既に妻子あり……残念でした。若くてやる気のある素晴らしい人材で、是非とも社会教育のスペシャリストになってもらいたいと考えているのは私だけではないだろう。(燕市中央公民館 館長 田中正夫 記)

## 素顔拝見

黒埼町教育委員会社会教育課

主幹 早川正夫 さん

彼は、平成九年八月一日付で税務課から、教育委員会社会教育課の社会教育係として着任しました。



ります。また、学級生の皆さんからは、彼

の人柄とまじめな仕事ぶりに、多くの方々から大いに信頼され、黒埼町の生涯学習活動の推進に励んでおります。今後、彼の活躍に大いに期待したいと思います。

(黒埼町公民館

館長 山際新一郎 記)





お便り紹介

—南国エーサーの地より—

# 「イチヤリバ、チヨウデ」 (会えば皆、兄弟)

沖縄市園田公民館長 小浜守勝

拝啓、ご多忙の毎日  
と思いますが、今井会  
長様におかれましては、  
は、いかがお過ごしで  
すか。  
鈴木局長様からも早々にお使  
りいただきました。  
沖縄市には、三十六の自治会  
があり、私も園田自治会は世  
帯数六六五、人口一、八七一人  
で、沖縄の伝統芸能「エイサー」  
が特に盛んな地域です。また、  
老人クラブ、青年会、子ども会

全国公民館研究会の折に  
は、偶然にも同じ居酒屋でお酒  
を飲み、言葉を交わしていきな  
り泡盛を押しつけられ、ご迷惑  
ではなかったでしょうか。沖縄  
の方言で、イチヤリバ、チヨウ

## 恵贈資料紹介

埼玉県公民館連合会

### 平成9年度埼玉県公民館実践資料集

#### 「俺ラホーじや こうだよ」

#### 「彩の国づくり」

へわが街に生きる公民館事業」特集号

豊かな国「彩の国」らしい実  
践資料集が恵送されて来た。  
装丁良し、グラフィア写真良し、  
紙質良し、それにプラスして実  
践内容良し、と来ている。正に、  
すばらしいとは、この資料集の  
ことをいうようだ。



等の活動も活発で、公民館も毎  
日大変にぎやかです。参考にと、  
資料や写真を同封、送付いたし  
ます。

そちら新潟の特色ある生涯学  
習活動や、公民館活動がありま  
したらご紹介ください。

祈り申し上げます。  
鈴木局長様、中野主幹様にも  
よろしくお伝えください。

活動事業の実践には、頭の下が  
る思いがした。  
欲を言えば、1の公民館事業  
を、活動領域、ジャンル毎に別  
けて記載すればなお読み易く、  
資料活用もスムーズにいくよう  
な気がする。それにしても、羨  
ましい限りのとてもすばらし  
い資料集である。



平成10年

## 春の全国交通安全運動

新潟県実施要綱

期間 4月6日(月)から4月15日(水)まで

スローガン 小さい手 大きく上げて 正しい横断

重点 子供と高齢者の交通事故防止  
シートベルトの着用の徹底

主催 新潟県交通安全対策連絡協議会  
協力 新潟県公民館連合会

あとがき

◇十日町婦人学級OG発行のミ  
ニコミ紙「ゆずり葉」の活動が、  
3月8日(日)AM10:00~13:30 B  
SN新潟放送から放映されまし  
た。すばらしい実践活動が紹介  
されていたようです。

### 表紙解説

#### 町の花「れんぎょう」

春一番に、町の花れん  
ぎょうで黄色い町並みにな  
ります。また、町内30カ所  
のモニュメントには、二六  
〇年前の紫雲寺湯干拓史が  
刻まれています。  
(紫雲寺町中央公民館)

発行所 新潟県公民館連合会  
〒951-8053  
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【TEL・FAX (025)224-6073】  
発行人 会長 今井昭友  
編集人 事務局長 鈴木友夫  
【定価1部150円 年共1,800円】

◇第7面素顔拝見の欄での敬称  
について、いろいろご意見いた  
だいておられます。さん付けが自  
然でよろしいのでは……とのこ  
とで、今回からさん付けにして  
みました。  
◇それでは、10年度もよろしく  
お願いいたします。(鈴木記)